

今回は、オンラインシステムを活用した学术交流の報告です。

◇ 屋久島学ソサエティ、日本霊長類学会大会にオンライン参加しました！

○日本霊長類学会大会中高生発表

日 程： 2020年12月5日(土)

主 催： 日本霊長類学会

参加者： 自然科学部霊長類研究班の生徒

内 容： 日本霊長類学会では、中高生に研究者や学生との交流を通じて霊長類学に関心をもってもらうことを目的として、第32回大会より中高生によるポスター発表を導入しました。関高校は毎年発表に参加しています。

○屋久島学ソサエティ

日 程： 2020年12月12日(土)

主 催： 屋久島学ソサエティ

参加者： 生徒16名

内 容： 屋久島学ソサエティは、ユネスコ世界自然遺産の指定を受けたことをきっかけに、研究者と地域住民が協力して構築した学術コミュニティです。地元屋久島高校の生徒も参加しています。今回、関高生も参加を認めていただきました。

◇ コロナ禍における学术交流

例年、関高校では、SGH・FRH活動の一環として、外部でのコンクールや学術発表などへの生徒の参加を奨励・支援しています。感染症の流行により、様々なイベントが中止を余儀なくされる一方で、オンラインによる交流が盛んに行われました。

自然科学部霊長類研究班の生徒は、ヒトの子どもとチンパンジーのナッツ割り比較を行った結果をまとめ、日本霊長類学会大会の場で発表しました。

屋久島スタディツアー参加予定者は、ツアー自体が中止となったため残念な思いをしましたが、自分たちが行ってきた研究成果を発表することができました。

機材の扱いに不慣れなために起きるトラブルや予期せぬアクシデント、意見交流や質疑応答のし難さなど、様々な問題点もありますが、学校にしながら、全国各地の方々と交流できるという大きな利点についても実感することができました。

FRH活動では、今後もウェビックスミーティングをはじめとする会議システムを活用し、全国各地の機関や個人と交流し、全国レベルのコンクールや発表会への参加にもチャレンジしていく予定です。



写真上： 日本霊長類学会大会の様子

写真下： 屋久島学ソサエティの様子